2016 年度 日本アニメーション学会 第 18 回大会 第 3 通信

ごあいさつ

第 18 回大会共同実行委員長
石田美紀、キム・ジュニアン

皆様、新潟市にようこそ。本大会実行委員会は、アニメーションについて共に考える貴重な機会を、アニメーション文化への理解と愛に満ちたこの都市で得られたことに、大きな喜びを感じています。

新潟市域は、アニメ化された名作の数々を発表してきたマンガ家を輩出してきました。オタク文化の黎明期から活躍し、アニメを支え育んできた監督もまた、新潟市の出身です。現在、新潟市は、マンガ・アニメの街として、「がたふぇす」をはじめ多くのアニメ関連事業に積極的に取り組んでいます。そして今回、アニメーション研究を専門とする日本で唯一の学術団体である日本アニメーション学会の大会開催を契機に、「研究」という新しい側面が加わることになりました。

記念すべき今回の大会テーマは、「アニメーションにおける身体性」です。手描きのアニメーションがメインストリームをなしてきたアニメについては、通常、2 次元やヴァーチャルといった言葉で示されつつ、リアリティーとはかけ離れたものとして見做されがちでした。しかしながら近年のメディア環境では、実写映像における空間、身体、演技、声の関係性は断片化されつつあり、一方従来のアニメーションの様相を保ちながらも、2.5 次元文化や聖地巡礼と呼ばれる現象の隆盛が示すとおり、アニメーションにおいては生身の身体の介入が著しくなっています。

デジタル技術がもたらした映像の存在論的な変化から、アニメーションと（実写）映画の区別が制度化される前の時代に遡り、映像の概念を考え直そうとする研究も進んでいることに鑑みれば、長い間アニメーションとその隣接周辺領域が「生命」を与えてきた数多くの断片化された身体のイメージこそ、現代の映像研究において中核的なテーマの一つであるといえるでしょう。

周知のとおり、アニメーションは、文化、科学技術、経済産業、社会といった人類の知的活動の幅広い領域を横断して存在し、多様な知見が活発に交錯する研究対象です。皆様の活発な議論と交流をとおして、本大会においてアニメーションへの関心がさらに深化することを、心より期待しております。

◎開催概要

時：6 月 11 日（土）、12 日（日）

場所：新潟大学（五十嵐キャンパス）

図書館内ライブラリーホールおよび総合教育研究棟 B 棟 2 階

大会テーマ：アニメーションにおける身体性

◎大会参加については、下記の「参加申込書」、または「通常総会のご案内」関係の郵送物に同封のハガキにて、6 月 3 日（必着）までにご回答をお願いします。ハガキにてご回答の際には、52 円切手を必ず貼付下さい。

----------切り取り線----------

第 18 回日本アニメーション学会大会 参加申込書

・ご氏名

・ご所属

・ご住所 〒

1. 大会に　　□参加する　　□欠席する

2. 懇親会に　　□参加する　　□欠席する

＊申し込み先　jsas2016@jsas.net

＊申込期限　6 月 3 日（金）必着

----------切り取り線----------

◎プログラム

6 月 11 日（土）（11:30～受付開始）

12:40～13:00　開会式：ライブラリーホール

13:00～15:10　基調講演「アニメーションと映像をめぐる問い～アニメ、アニメーション、アニメイティング」

●北野圭介（立命館大学）

学会賞贈賞式

15:30～16:50　研究発表：総合教育研究棟 B 棟

◆研究発表（一般パネル） 1 A（B251 教室）司会：古城文康

●渡部英雄「手描きによる動画作成法について」

●萩原由加里「政岡憲三『人魚姫の冠』絵コンテについて」

●新美亮輔・こはらいつとし「定量的手法による宮崎駿・押井守・細田守のショ

ット長スタイル分析」

◆研究発表（一般パネル）１B（B253 教室）司会：野村康治

●中村 浩「フラッシュラグ効果を媒介とした仮現運動の検討」

●吉村浩一、佐藤壮平「単一対象図形を 3 コマ打ちで滑らかに動かすための要件：輪郭・背景・運動軌道要因の検討」

●佐藤壮平「動きのジャーキネスを時空間周波数領域の変動量から分析する：実写とアニメーション映画の比較」

17:00～17:50　総会：総合教育研究棟 B 棟 B251 教室

18:00～　　懇親会（会費制）

6 月 12 日（日）（9:30～受付開始）

10:00～11:20　研究発表：総合教育研究棟 B 棟

◆研究発表（一般パネル）２（B251 教室）司会：須川亜紀子

●平野泉「アニメで描かれる「分身」としての玩具――『遊☆戯☆王』と複数化された自己」

●野口光一「コンテンツ産業のメディアミックス展開――『妖怪ウォッチ』を中心に」

●木村智哉「東映動画における初期「研修生」の採用と 1980 年前後の製作体制」

11:20～12:40　昼休み

12:45～14:40　テーマ・シンポジウム「アニメーションにおける身体性」

：ライブラリーホール

●顔暁暉（国立シンガポール大学）

●マーク・スタインバーグ（カナダ・コンコルディア大学）

15:00～16:45　研究発表：総合教育研究棟 B 棟

◆研究発表（テーマパネル）３A（B251 教室）司会：米村みゆき

●山本忠宏「1960 年代の時代劇アニメーションにおける身体の表現――『佐武と市捕物控』における血液、切断、音響」

●森友令子「写実的擬人化の可能性について――『ガフールの伝説』にみる感情表現」

●宮本裕子「トレースされた「グロテスク」な身体：フライシャー兄弟によるロトスコープの発明とその使用」

●泉順太郎「『アニメ・マシーン』に対する『シネマ』の適用可能性と不可能性」

◆研究発表（テーマパネル）３B（B253 教室）司会：清水知子

●スアン・スティービー「アニメの約束――グローバル化する日本アニメのパフォーマンス分析」

●佐分利敏晴「彼女はなぜそのとき立ち上がったのか――身体、環境、行為、意

図」

●萱間隆「日本におけるトーキーアニメーションの誕生――リップシンクとアフレコに焦点化して」

16:50～　閉会式：総合教育研究棟 B 棟 B251 教室

※「ビアズリーと日本展」（2016 年 4 月 29 日～6 月 26 日　新潟県立万代島美術館）の観覧券を、新潟県立近代美術館長徳永健一氏のご厚意により頂いております。ご希望の方は、大会当日の受付時にお申し付けください。先着順で、会員お一人様につき一枚を、お渡しいたします。数には限りがありますので、希望される方全員にお渡しできない場合もあることを、予めご了承ください。

「ビアズリーと日本展」および新潟県立万代島美術館（新潟市内）についての詳細は、以下の URL をご覧下さい。

http://banbi.pref.niigata.lg.jp/

◎実行委員会

共同実行委員長：石田美紀、キム・ジュニアン

実行委員：アルバナ・バロリ、五島一浩、渡部英雄

◎実行委員会事務局

新潟大学五十嵐キャンパス総合教育研究棟 A 棟 602

Tel: 025-262-7184　　Email: jsas2016@jsas.net

第 18 回大会専用 Facebook：www.facebook.com/jsas18conference

◎大会参加費

正会員　5000 円

（非常勤、学生など 3000 円：自己申告制）

一般　3000 円

学生　500 円

◎懇親会費

正会員　5000 円

（非常勤、学生など 3000 円：自己申告制）

◎開催地アクセス：新潟大学五十嵐キャンパス

〒950-2181 新潟市西区五十嵐 2 の町 8050 番地

http://www.niigata-u.ac.jp/university/access/ikarashi/

●電車：新潟駅より「新潟大学前駅」（JR 越後線、20 分）にて下車後、徒歩 15 分

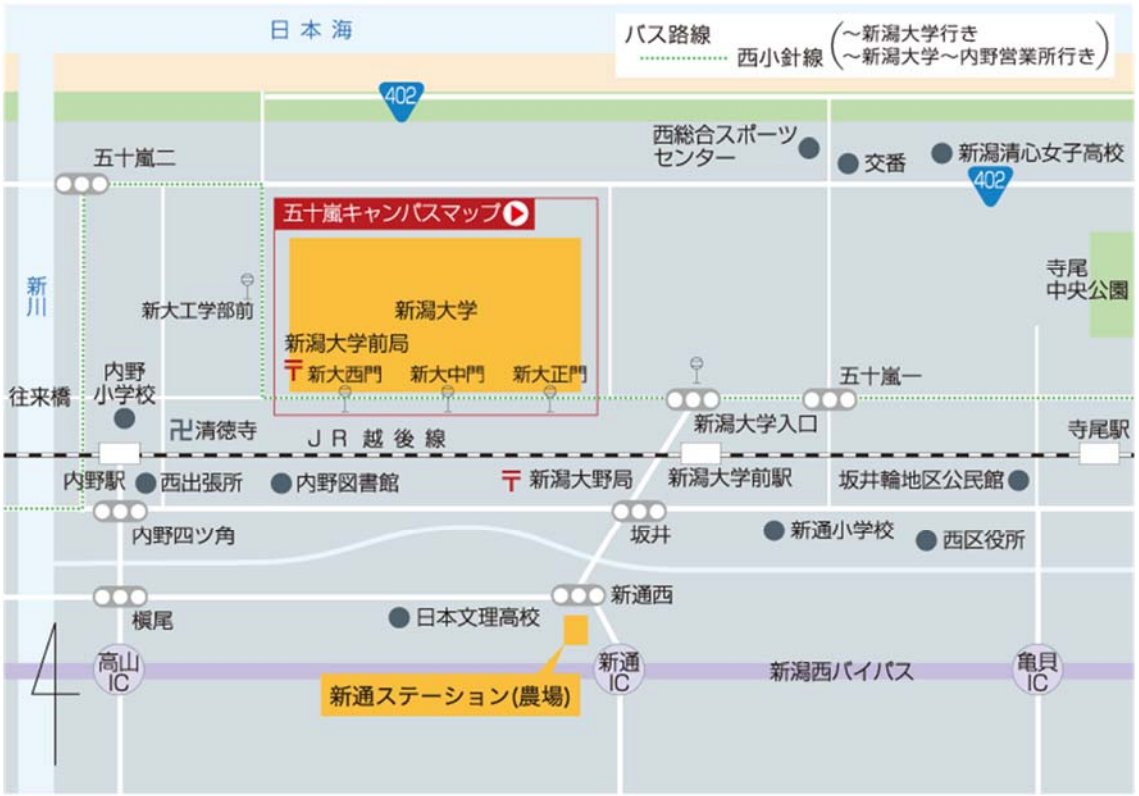
●バス：新潟駅万代口バスターミナルよりバス W21 に乗車、「新大正門」にて下車（45 分）

●航空：新潟空港よりリムジンバス（均一 410 円、直行の場合 25 分）で新潟駅にて下車後、バスか電車へ乗り換え

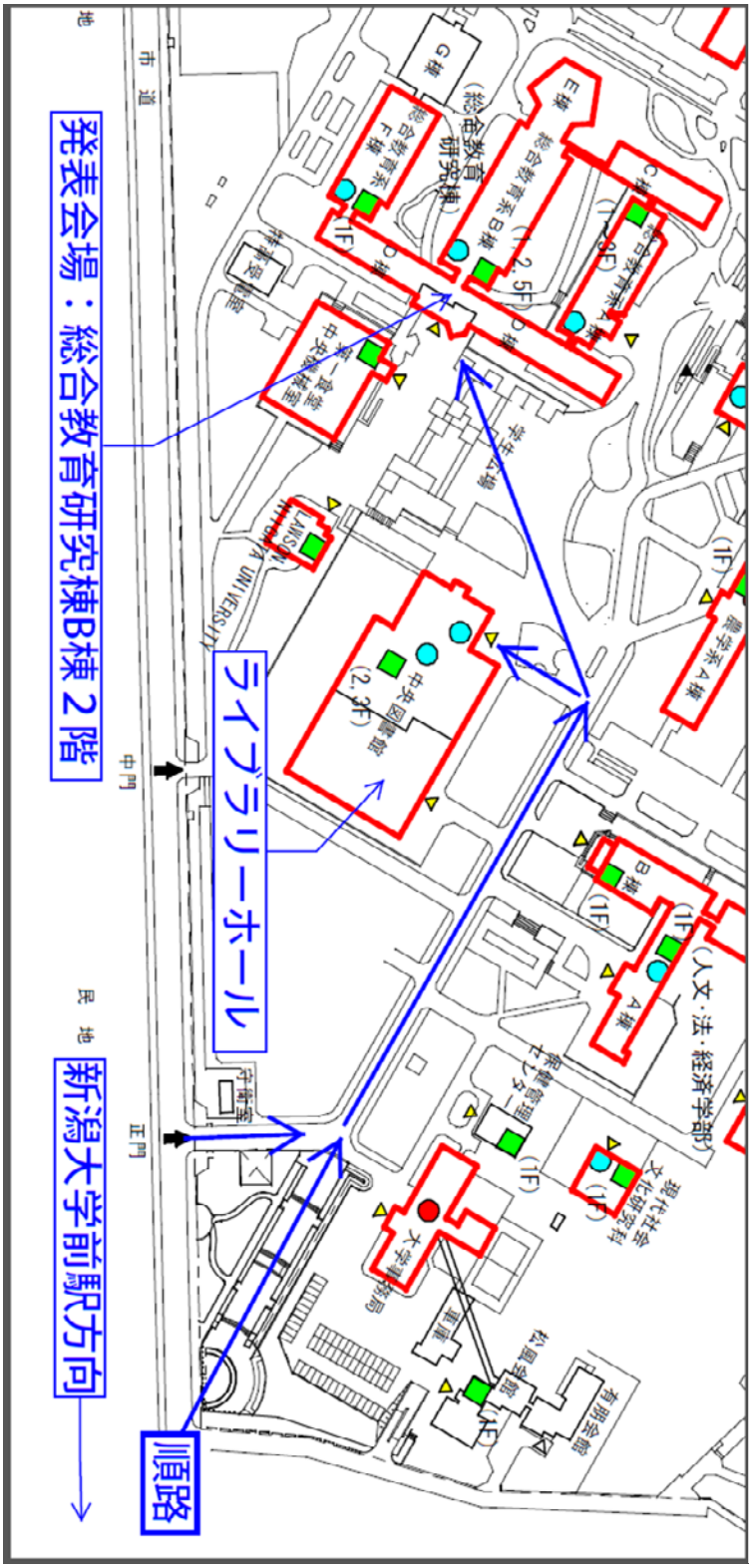
※次にアクセスの案内図がございます。

※新潟大学前駅より会場までのアクセスは写真付きのご案内もございます（別添）。

新潟駅から新潟大学までの路線図

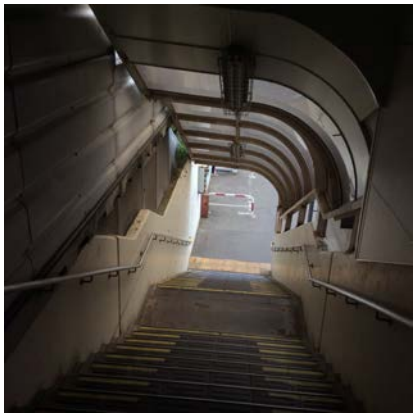


新潟大学内会場へのアクセス



新潟大学前駅から会場までの写真付き案内

①新潟大学前駅のホームにおりますと、この表示板が見えてきます。



②改札口を出てすぐ左側の階段へ。

③前方のトンネルへ。

④このトンネルを通り抜けます。

⑤トンネルを出ると、
大学の表示板が現れます。

⑥矢印の方向に曲がり、
この道を直進します

⑦また大学表示板が現れますが、
前方の建物の左側に進みます。

⑧大学表示板の矢印は無視し、
左側の駐車場を通過・直進。

⑨横断歩道をまっすぐに渡ります。

⑩左へ道なりに進みます。

⑪新潟大学の入口の広場（正門）に到着

⑫広場を通過・前進。

⑬左にある丸い建物が図書館です。

⑭図書館入口の左側がライブラリーホール。

⑮研究発表等の会場である総合教育研究棟は
図書館入口を出て左方向にあります。